



海エネ絵はがきコンテスト

佐賀大学、海洋エネルギー研究所主催「第9回 全国海エネ絵はがきコンテスト」が7月に開催され、島内小学生5名が入賞しました。佐賀県伊万里市と佐賀大学、本町は海洋温度差発電の繋がりをきっかけに海洋温度差発電の研究開発及び利活用並びに地域交流の推進に関する連携協定を結んでいます。その取組の一環として、令和3年から島内小中学生が作品を応募。今年の絵はがきのテーマは「私の海とエネルギーと夢」。海に囲まれて育っている島の子どもたちの、豊かな発想があふれる作品がそろいました。

- 最優秀賞 美崎小4年 真栄平 陽 莉(ひまり)さん
- 優秀賞 美崎小3年 仲本 球児郎(きゅうじろう)さん
- 久米島町長賞 美崎小3年 玉城 陽 琉(はる)さん
- 入選 美崎小3年 吉原 漣(れん)さん
- 入選 久米島小3年 嘉数 伊 織(いおり)さん



小学校高学年の部
最優秀賞
「いつまでもきれいな海と電気」
(沖縄県) 久米島町立美崎小学校 4年生
真栄平 陽莉

～9月3日は球美の日(久米島観光の日)報告～

9月8日(日)イーブ情報プラザにおいて「球美の日のイベント」を開催し、約100名近くの方が来場しました。第1部では、島の素材を使用したワークショップを開催。久米島に来訪された観光客の皆さんがどんな風を楽しんでいるのか、観光客気分になって体験してもらいました。体験した町民からは「材料や道具を知る事ができたので自分で挑戦したい」「島の良いものを観光客に伝えるためにも観光協会と連携したい」などの感想がありました。



ワークショップ

第2部のオープニングでは、約200年以上の歴史を誇る伝統芸能の獅子舞を兼城の子どもたちが披露し、9月3日のくーみんの誕生日をお祝いし、会場を盛り上げました。講演会では、くめじまDMOとFM久米島による観光事業の取組みを紹介し、情報共有を行いました。また、島内で活躍する若手起業家による「起業家からみた久米島観光について」と題し5名が登壇。合同会社PLUCKでは、観光に来たお客様がリピーターになり、移住を計画されたりテレワークで2拠点居住をしたい方などに向けた久米島初シェアハウスのオープンを計画している。登壇した石坂未来氏は「観光の先の関係人口」について発表し、シェアハウス利用者と地域を繋げる島の玄関口となり、観光でもピックアップされている久米島の人と人を繋げる役割を担いたいと話していました。



兼城子ども獅子舞

参加された方からは「地域の資源を活かして観光に繋げて欲しい」「多様な経営者がいて希望が見え、持続可能な未来を感じた」と感想を述べました。今後も引き続き久米島観光について考え、取組みを行っていきます。



くーみんのお祝い

球美の日とは?

久米島がかつて“球美(くみ)”と呼ばれていたことから、9月3日を「球美の日(久米島観光の日)」と宣言。久米島観光について島全体で考える日としています。

登壇者

- 【久米島とりっぷ】中島悠希氏
- 【リゾートハウスみなみ】羽賀祐介氏
- 【Brewery Tumugi】島袋陽子氏
- 【合同会社PLUCK】石坂未来氏
- 【YUNAMI FACTORY】摺木陽介氏



講演会の様子